◇主婦のクイズ、詰連珠の解答は十日まで投書函へ

悲惨極まる中小鑛

ヨモギやザリガニ等をお茶に

子供の物まで質に入れる

六月十九日より九日間、九州炭労の要請により炭界不況にあえぐ中小炭鉱の実情調査をこれまで文章のみの陳情や報道で、その実態をよく知られていないので、三池の平島編集部長が派遣され、実情を寫真に収録し、縣会、國会、關係官廳等に提出し、対策を要望するためその準備が進められている。以下は同部長がもたらした悲惨な中小鉱の現地ルポである。

第三組合が発生する

岩屋労組

先ず昨年の水害で徹底的な打撃をうけた佐賀の岩屋労組にむかつた。昨年の水害直後、企業整備闘争中阿具根参議と同行して約一年振その闇の生活の窮乏は一歩社宅内に足を入れた途端、直感的に察しられた。それは社宅の崩壊の激しさに比べ修理が出来ず、商店街も活気を失つている。附近の衣料店の店主はこちらの質問に率直に答へ「もう半年ほど前から掛け買は一切断つています。何しろ四十万円からの貸し倒れですからね」と炭住街での近頃の商賣のむつかしさを語つた。

組合事務所では教宣部長や青行隊の諸君が一生懸命にガリを切つていた。その内容は、つい最近支払われた賃金より組合員一二〇名が一部の指導者（労務関係者で第三組合と称している）によつて配られた給料よりの組合費差引き反対というビラに捺印して、会社に申入れをなしたもので、完全な組合の切崩策である。これに対して、組合としては、組合が団結してこそ色々な条件もとれるのであるから、その闘うための弾丸である組合費を早急に納入して下さいという呼びかけのビラであつた。

生活資金に組合費還附

月二回か三回の千円宛の賃金の支払で全くその生活は塗炭の苦しみで組合費も四月分まで徴収しているのであるが、この四月分にも異論があり、遂に職場委員会（三池の中央委員会的性格）を開いて四月分組合費、見合額を各人に貸与することを決定した。

中小鉱いずれも同じであるが先ず現金に困つている、岩屋労組も組合員を佐賀や、小城あたりまで土方の斡旋をなして現金の収入をあげている。又炭婦協の人々は川に茂つているヨシを切つて海苔を乾燥させる場合に使う「ヨシズ」をつくつている。これは一枚五円程度で二、三〇枚が一人で一日精一杯というところである。子供達はザリガニや木の実などをつんで主食に混入するか、副食になつている状態でまことに悲惨である。

電氣もつかぬ

＝新屋敷労組＝

岩屋労組より一山こえたところに日鉄新屋敷労組というのがあるが、こゝは休坑になつている。こゝの中小としての特殊なケースは貯炭を労組、職組が管理していて、これを販賣した金額は会社、労組三者の話合いで生活資金その他にむけられている。すでに山の病院は会社病院のカンバンをはずし、医療法人のカンバンを掲げ幼稚園は休園になつてまことに廃墟の感がある。組合事務所では土方作業斡旋や、失業保険の説明などで大童であつた。電気料金が支払えずローソクを立てゝ食事や勉強をしているのもこの山である。

組合のない籾井鑛

佐賀より友山田川に向い、会社、組合共同管理で失敗した籾井労組に向つた。この炭鉱はすでに他の経営者の手にうつゝて操業されていた。こゝは九炭労副委員長の話ではボスの山らしいということで私も随分用心していつたが、何しろ労働組合の事務所と看板はあるが役員も組合員もいないという労働組合のない炭鉱になつていた。それは、前組合長が労務主任（係長）になつたので組合は解散したとのことである。

會社建物はピシヤリ

筑紫労組

田川より山野労組に参り、山野労組教宣部長の案内で、岩屋労組と同じ資本の高倉鉱業の筑紫労組に山野のニュース・カー山鳩に便乗して乗込んだ。先ず驚いたことは会社事務所の立派なことである。サゾカシこゝの労働者も豊かであろうと印象づけられるが、なかなか左にあらずで、今度廻つた中小で、こゝの労働者が一番みじめな生活をしている。そも〳〵この様な労働者の悲劇を招いたのは事務所でわかるように非生産面への過剰投資やまた岩屋での鉄車の新造がこの悲劇を招いている一要因であることがうなづけ経営者の無能、無策に全く憤りを感じ、みじめな労働者であり、同志である筑紫の兄弟達に頭が下つた。

配給の品物で生活

丁度組合に到着したころ、魚の配給があつていた。みんな藁と紙のフダをもつている。話を聞いてみるとこゝ半年ばかりの中にこの筑紫では一万円位しか賃金はもらつていない。後は同鉱業所発行の金券で米、醤油、味噌、野菜、魚などを戦時中の様に二、三百人が一列に並んで配給をうけるそうである。月千円か二千円の現金では学校に出している家庭ではそちらの方でなくなつてしまうので衣類は勿論、甚しいところでは下駄も買えず、母子がはだしで暮す状態である。会社は給料より組合費を差引くがその差引いた金は現金で組合に渡さず、また市中商店より掛け買い分も給料より差引くが、商店に渡さないので筑紫の組合員は商店からボイコットを食つている。会社賣店は大きいのがあるが、品物はなんと長靴四 五足と紙が少々という全く何もないといつた方が早い位だつた。つゞいて社宅を廻つたが、これも全くひどく昔の納屋そのまゝで、一間に五、六人位住んでいてフスマもなく雨はどんどん漏るという状態であつた。気の毒な話であるが、タンスや茶ダナ一つなくほとんどの家が押入にセンペイ蒲団が二、三枚程度というところである。

附近の質屋はこの人人の品物が他の地域の三分の一位で値をたゝかれ倉庫に山積されていた。

大手の問題として

以上の報告の外に五、六山廻つたがほとんど中小の窮状はかわらない。この各山をめぐつて感じたことは果して中小の経営者が労働者に眞剣に会社企業の立直しを考えているであろうかと疑問が起きる。とくに高倉鉱業は岩屋、平田山、筑紫と三山あるが、これが代表的な苦しい生活をなしていて、もつとも悪質な組合の切くずしとゴマカシやキペンをもつて時期を稼ぎ、労働者のみの犠牲で休廃山を企んでいる様に感じられる。また労働者自体としても闘うことを忘れ、団結することを忘れ、もう駄目だ、メイフアーズ式の人々や会社幹部のキンタマにぎりをなして已一人が楽をしようとする敗北主義者がいることも否めない。

私達大手の労働者も対岸の火事として傍観することは全く危険である。何故ならば中小で失業した炭鉱労働者が次から次へと安い賃金で渡り歩いている。むづかしい言葉では「産業予備軍」というが、この産業予備軍をつくらぬことは我々の生活を守ることであり、その事は中小を守ることより通ずると思う。

ヨシズを編む炭婦協の人々（岩屋労組にて）

焦点

炭界不況をまねいている大きな素因の一つに重油の輸入問題がある。石炭が賣れずにドンドン休廃山して居る中小鉱を救うためにも何とか早く手を打たなければならない。

これにつき阿具根参議から衆、参両議院労働委員会として政府と交渉した経緯を次のように報告して来た。

重油の輸入抑制で炭鑛をすくえ

阿具根参議の報告要旨

先ず中小炭鉱対策について衆、参労働委員会は夫々四、五回を開き、愛知通産、小坂労働両大臣に鋭くつめより愛知通産大臣は就任当時（四月）に於て二十九年度四千八百万噸乃至五千万噸の石炭需要を強調していたのを自分の不徳不明と謝し、幾分下廻らざるを得ない事になつたとし、本年度重油輸入予定五三七万K立（重油一K立は石炭二噸に匹敵）を如何にして下げるか、今のまゝで行けば六七〇万K立となり、石炭にこれ以上の犠牲を強いる事となる為に、現在四月四八万K立、五月四五万K立使用しているのを六、七、八、九月は、夫々三一万K立とする事。五三七万K立を二十九年度に使用するとすれば二十八年度同様石炭国内炭需要は四千三百万噸程度となる為これでは二十八年度を繰返すだけなので五三七万K立をくずす事。二十九年度の下期重油輸入は上期の実績を見た上で計画する事を言明した。

これは二十八年度も二十九年度も重油の輸入を五三七万K立としていたが、二十八年度は先行の見透しなどで六二〇万K立も輸入されている。これを先づ上期に押えて六—九月を三一K立とし、その実績で行けば下期は当然年間五三七万K立の線より下廻つた数字になると云う事であり、石炭四、八〇〇万噸使用は不可能であるが、二十八年度の如く四、三〇〇万噸位ではありませんと云う事である。四三〇〇万噸から四、八〇〇万噸の間、この五〇〇万噸の中間に石炭業の運命がかゝつているようであるが、一応我々は四、六〇〇万噸と通産大臣の腹を見てそれ以上の追及を止め、政府融資、労働金庫、預託、失業者救済等について目下强力に折衝中である。

現政府の如く何等根本的な燃料対策もなく重油と石炭を両天秤にして互いに相闘わしめ、その競争の中に於て炭価の引下げをねらうが如き事は一人その犠牲を炭鉱労働者のみに負わせ角をためて牛を殺すの最も愚なる政策であり、これに対し断固として反対しているものである。

北九州の同輩を救へ

＝一組合員の要望＝

去る二十日の夕刊新聞を見て胸を抉られる思いがしました。それは北九州の同僚が、生活の危機に悩んでいる事實でした。一番心を打たれたのは学童の中食事に級友の皆がおいしそうに弁当を食べている中に、二、三人席を外して、學窓にもたれかゝり、空腹をこらへ、視線をそらしている、いぢらしい姿は涙さえ誘いました。次に電燈のない暗いローソクの灯に夕食を楽しんでいました。それもカユをすゝつているではありませんか。さながら終戦直前の事態を思い出させます。次にもう一つ、学校へも行けずボタ山で炭を拾つて生活を援ける学童。一つ一つの写眞にも哀れをさそうものばかりです。どうか組合幹部の皆様、北九州の同輩は、一粒の米、一片の菜ツ葉にもあえいでいるのです。他の労組、炭婦協は着々と金、米と救援の手を延べています。それなのに東洋に誇る三池炭鉱労組が先陣出来なかつたことは痛憤に堪えません。今からでも決して遅いとは申しません。一合の米でも多く、一円の金でも多く、そして一刻も早く救援されんことを切に要望致します。

一坑外夫

三池炭鉱労働組合長殿へ

三池たんぽぽ

炭婦協

内地米を食わせろ

福炭婦協が抗議

いまゝで政府や資本家は、炭鉱労働者には米やいろいろの配給物があつて、社宅なんかもあるので、安い賃金でよいといつていましたが、この頃では賃金はよそよりもグーツト下で、だん〳〵配給物もへらし、ついにこんどは炭鉱向主食の中の内地米を、うんと減らして、外米を多くするという政府の態度がハツキリしたので、先ず台所をあづかる主婦が立ち上つて、坑内という特殊なところで働く夫達に腹一杯食べさせて仕事をしてもらわねばならないので、農林省の福岡県食糧事務所長に陳情の為二十二日福炭婦協より出むいた。三池からは五島会長が参加、炭鉱の賃金の安いこと、また夫達の労働条件の悪いことなどを三時間半に亘つて説明した。

所長は「本日より上京するので、食糧長官に十分説明して、もとの通りになる様努力します」と約束したので抗議文を渡し、つゞいて県知事に面接に出むいたが留守の為、九州炭労に一任して帰山した。

政府は十月頃から家族加配米をうち切るといつているようで、主食の配給が減ることは、賃金を切下げられると同じだから、主婦もあんかんとしていないで、組合とともにこれを打破るため立ち上らねばならない。

母ちやんが投手

大島地域連合第三分会の総会は二十日午前九時より大島社宅海岸グラウンドで開かれ、その后レクレーションとして婦人、子供をまじえてのソフトボールが行われた。お母さんが投手で子供が補手、姉さんが一塁、お父さんが外野で一家総出場のチームもあり、一日面白く擧行され午後四時終了した

【写眞】母ちやんもバットを握つて

歌を歌え

緑ケ丘で

歌と演劇で暗い世間を明るくしようと三川支部緑ケ丘地域分会及び炭婦協では「合唱と演劇」の催しを六月二十日午后一時より、緑ケ丘講堂で「歌を覚える会」「ばぐるま劇団」を招き開催した。中でも「ばぐるま劇団」の「千代の手紙」は場内があまりさわがしいので、時々文句が聞えなかつたのでもう一度静かに聞きたいという声もあつたように、興味をもたれて非常に有意義に終つた。

主婦のクイズ

一問＝水と熱湯とではどちらが早く凍るでしょうか。

二問＝日本の鉄道は国鉄と私鉄はどちらが多いでしょう（敷設距離）

＝詩＝

子によせて

千原久に子

こんな子もうくれてやると思う
程　うるさいことがある。
わがまゝでき　ゝわけがない子供
つとめからかえつてみると
蒲団を頭までかぶつてねている
もしや死んでいるのではないか
ドキツとするときもある。
そうつと蒲団のうえから掌をあ
てて
かすかな鼓動をたしかめる
パツと蒲団をはねのける
そこに汗を浮かせて直亦にのほ
せたほゝをみてほつとする。
（紅葉丘「すくらむ」より）

家計簿のつけ方

計理士　杉原貫（5）

帳簿への記帳

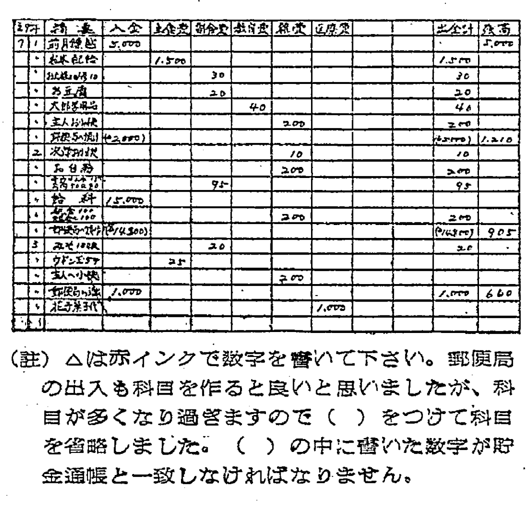
いよいよ帳簿をつける段になりましたが、先回作りました帳簿を御覧になりながら下記の例題を記入してみて下さい。今日を七月一日と仮定します。給料が変な日に入りますが例題ですから気にしないで下さい。

七月一日
①前月からの繰越金が五、〇〇〇円あつた。
②主食の配給があつた代金一、五〇〇円。
③夕食に大根二〇円、人参一〇円、豆腐二〇円を買つた。
④太郎の学用品を四〇円買つた
⑤主人に二〇〇円お小遣いを渡した、煙草代だろう。
⑥郵便局へ二、〇〇〇円預けた

七月二日
①次郎へ小遣い一〇円。
②私のお白粉を買つた代金二〇〇円。
③夕食にキウリ二本一五円、お肉五〇匁八〇円を買つた。
④給料をもらつた総額一五、〇〇〇円。
⑤税金一〇〇円、組合費一〇〇円を差引いてあつた。
⑥残額全部を郵便局へ預けた。

七月三日
①朝食みそ百匁二〇円を買つた
②お昼のウドン玉、五玉二五円
③主人へお小遣い二〇〇円パチンコ代かしら。
④花子が病気の為郵便局から一〇〇〇円引き出した。
⑤医者へ花子の薬代外一、〇〇〇円を払つた。

帳簿へこの例題を記入してみると左のようになります。



月日		摘要	入金	主食費	副食費	教育費	雑費	医療費			出金計	残高
7	1	前月繰越	5,000									5,000
	・	主食配給		1,500							1,500	
	・	大根20人参10			30						30	
	・	お豆腐			20						20	
	・	太郎学用品				40					40	
	・	主人お小使					200				200	
	・	郵便局へ預け	(△2,000)								(△2,000)	1,210
	2	次郎お小使					10				10	
	・	お白粉					200				200	
	・	夕食キウリ15 肉50匁80			95						95	
	・	給料	15,000									
	・	税金100 組合費100					200				200	
	・	郵便局へ預け	(△14,800)								(△14,800)	905
	3	みそ100匁			20						20	
	・	ウドン玉5つ		25								
	・	主人へ小使					200					
	・	郵便局から出	1,000								1,000	660
	・	花子薬代						1,000				

（註）△は赤インクで数字を書いて下さい。郵便局の出入も科目を作ると良いと思いましたが、科目が多くなり過ぎますので（　）をつけて科目を省略しました。（　）の中に書いた数字が貯金通帳と一致しなければなりません。

訂正・前版花子菓子代とあるは薬代の誤りに付訂正

サア水の季節です

坊やは大丈夫ですか

梅雨も晴れて愈々水が恋しくなつて来ます。しかし一寸の親の不注意から可愛いざかりの子供が水魔に奪われて悲歎に暮れる家庭が毎年日本全国で何千何万という人がいます。現に昨年だけでも三鉱関係では十数人の子供の水死があつています。

「一寸の油断が愛児を奪う」みんなよく気をつけましょう。次の二つの話も水魔から奪われようとして助かつた実例です。

【その一】

六月四日十時頃、四山社宅一七〇棟西山利晴氏（掘進）長男利光（四才）が家族不在中裏の川で魚取中、折からの上潮でおぼれているのを、同社宅一五一棟機元吉村進氏（四三才）が薪割中発見、飛込み救助した。

【その二】

四月三十日午前三時三十分頃、大島社宅三三棟佐伯鐵氏（三五才仕繰工）長男啓二君（五才）が社宅横の防火用水槽にて遊戯中転落したのを、同社宅二四棟採炭工山田永記氏（四二）がかけつけ救助した。

浸水やガケ崩れ

勝立社宅の豪雨禍

廿八日から卅日早暁にかけて降り続いた豪雨で社宅にも相当な被害が出た。

一番ひどかつたのは宮浦の勝立社宅で月見ケ丘、通松社宅の下段が何れも浸水、特に通松は灘川の護岸工事を完了して居たのは好いがそのため社宅敷地よりも護岸の方が高くなり、山側から奔流して来た水がはけ切れずに同社宅五五、五六、五六、五八、五九、六九の各棟は床下浸水の憂き目を見た。また月見ケ丘社宅の場合はこれまた排水溝が貧弱なため一面水に浸つたもので、組合側では卅日朝来湯村副支部長らが詳細状況を視察の上早急改修を行うよう会社側に申入れた。

崖くずれは勝立社宅事務所うらが高さ五米、巾五米、厚さ二乃至三米崩落、このためガケ上のコンクリート道路に長さ十米以上の亀裂が入つて極めて危険な状態に陥つたほか、大砂六棟裏も長さ廿米高さ五米、厚さ一米のガケくずれがあり、この他東谷十八棟附近その他随所にガケくずれがあつた。特に被害が大きかつたのは、これは社宅ではないが上池の谷浜田進氏（宮浦鉱運搬工）宅のガケがくずれて同氏宅が玄関を除いてスツポリ埋つて了つたと云う椿事が起り、幸い人畜に被害はなかつたが浜田さん一家九人は復旧まで通松社宅に収容される事になつた。

三川チームが優勝

三鑛柔道大會

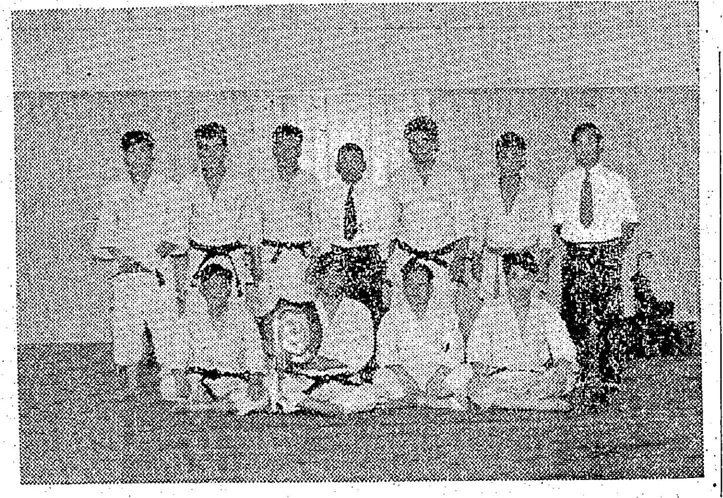
三鉱柔道大会が廿七日午前九時から本社体育館で舉行された。団体戦はA、B二組に分れA組優勝の三川とB組優勝の四山の両チームが争われた結果三川が五対四山を降し堂々優勝した。

團體戰

三川	5−1	四山
〇清水（無）		種川（初）
江口（初）		福島（〃）
杉山（〃）	引分	日満（〃）
〇佐藤（〃）		上島（〃）
〇荒岡（〃）		鍋島（〃）
〇森本（〃）		帆足（〃）
〇重村（〃）		吉田（〃）

個人戰

◇有段者の部
準優勝戦＝〇森本（初、三川）―種川（初、四山）
〇山崎（二段、製作）―黒田（港）
優勝戦＝〇山崎―森本
◇無段者の部
準優勝戦＝〇田中（宮浦）―西原（三川）
〇大橋（港務）―藤吉（宮浦）
優勝戦＝〇田中―大橋



優勝した三川チーム

常識外れの管理

寮生44名に小皿六枚

勝立青年寮の要求通る

勝立青年寮から食器の整備、炊事施設の充実改善などの要望が宮浦支部に持越まれ、早速厚生部が実情調査におもむいた結果問題は即座に解決ついたが、これによつて明かになつたことは近江絹糸ならいざ知らず今の世に、殊に三井の施設にこんな時代おくれな部面もあつたのかと組合当事者を面喰わせて居る。例えば食器を整備して欲しいと云う訴えにしても、現在四十四名の寮生に対して小皿が僅か六枚しかないため食事が終るのを待つてあとの者が歴代で使わねばならず、その他丼にしても洋食皿にしても数が不足していたり映けていたり、これでは人間並みと云うより犬やネコ扱いに近い。また最近まで味噌汁はバケツに容れた御飯はざるに入れたまゝ蝿のたかるに任せると云う不衛生ぶりで市の保健所から指摘された事もあり寮自治会としても再三再四改善方を申入れて来たが、同時も予算がないの一点張りで、今度組合側から強硬懸合つた結果ようやく蝿防ぎの金網、容器などまあまあと云う程度に整備出来たと云う訳、兎角マゝ子扱いされ勝ちな独身寮管理のこれは一つの典型と云えよう

危い！線路に酔漢

機敏な處置で轢死寸前命拾い

小堺運轉手の表彰申請

話は少し旧聞に屬するが、去る五月卅日午前一時廿分頃三番方就役の廿仕業十七号電車（運転手小堺俊治氏）が宮浦から浜駅に向い明治町附近を進行中ガード工事現場と場内引込信号器との中間に人が倒れて居るのを発見、急停車を行つたので文字通り危機一髪（車体は既におゝいかぶさり　車輪が触れるばかりだつた）のところで事なきを得たが、同所はカーヴになつて居るため電柱に視野を妨げられて人が倒れて居るのを認めたのは至近距離であり特に千分ノ七の下り勾配になつて居たので小堺氏の機敏な処置がなかつたら間違いなく轢き殺したところであり港務支部では目下同氏の表彰方を當局委員会に申請中である。尚命拾いしたのは明治町一丁目せんべい屋小宮秋利さんで、酔つ払つて同所に倒れて居たことがわかつた。

人命救助の小堺氏

投書

我等の代表者

三川・E生

本年四月の初め頃と思う。私は三川坑の坑内常一番で繰込時間二、三分前に、繰込場よこの便所に行き二、三分で用をたして出てみれば便所前にかけておいた工具入れがぬすまれて、工具、ベントウ、スイトウ、バンドのすべてをぬすまれた私は一里半以上の遠い通勤者で妻も四時前におきて私も暗い内に出てせつかく出勤してかえる気持ちにはどうしてもなれませんでしたが、ベントウをぬすまれては坑内に下る気にもなれず、かえるつもりで坑長室の前まで来ると職場の委員で分会長（今は保安部の安全委員）のFさんに会つて事情を聞かれ、事情を話すとFさんは奥様のせつかく眞心こめて作られた自分のベントウを私に全部くれて、私に坑内に下つて働くようすゝめられました。私も一度はことわりましたが、Fさんの心からの親切にあまえてFさんのベントウをもらつて坑内に下り、その日一日を無事につとめました。

今頃でもベントウをぬすむような悪い組合員も居ればFさんのような自分のベントウを自分は食わずに私にくださるような良い人もあります。私等の分会長Fさんは委員も今まで何回もつとめられ、この度の改選にも又委員になられ、私もFさんのような人は組合員の代表としてほんとうの人格者と信じています。組合の方でも社品持出しや組合員の工具や、ベントウ盗むような悪い者は罰すると共に小さな事ですが、Fさんの様な方は表賞すべき事と思います

四山坑で命拾ひ

災害は常に身邊に

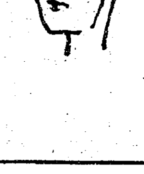
六月十六日四山坑六〇〇米坑道にて二二時三〇分頃東十卸集斗口で炭積作業の函番が炭函送りのため車輪へポートを入れ様としたが入れそこない二十函の炭車が逸走、折から三番方運搬工五、六名を乗せた人車が一目貫副線にさしかゝつた時轟音を聞き事故をさつちし全員飛降り避難した時炭函と電車が正面衝突、炭函及電車がどまをし見るもむざんに変形、炭の散乱土煙で避難者は肝を冷やした。人命には異状はなかつた。

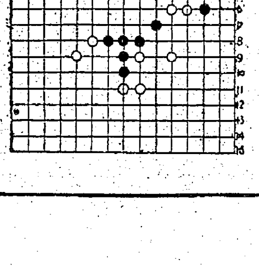
銀水社宅子供會結成

銀水社宅P・T・Aでは先の総会で社宅子供会の結成を決議し、P・T・A委員浮島、江頭、古賀三氏でその準備を進めていたが、六月二十七日午前九時から社宅集会所に於て社宅居住の小学生二百数十名の子供会の発会式を舉行した。P・T・Aではこれに先立ち全員を以て子供会の育成会を形成し社宅三百五十戸を九班に分けて各班に一名宛の推進委員を置き、子供会を育成指導する。子供会は会長一名、副会長二名とし各班に班長一名、副班長二名を選出し、すべて子供達の自主性によつて運営することとし、推進委員はこれを側面的に指導するものである。

詰連珠問題

第一回





黒二珠にて四三の勝を作る事。黒先手三三、四三三、四四、六珠長連何れも負とす。白は何れも自由とする。

出題者　八段　江上宗壽

今週の映画

銀星
命を賭けて
妖鬼屋敷
親馬鹿狸合戦
4−7

友楽館
燃える上海
母継道中
トンチンカン長屋騒動
7−10

新世界
噂の女
魔子恐るべし
愛の決断
7−13

大天地
美男天狗黨
地獄の決闘
7−13

寶星
第二次世界大戦
思春の泉
急襲桶狭間
7−10

名畫座
素晴らしき哉人生
二挺拳銃の龍
里見八犬傳（三部）
7−13